

様式第6号(第18条関係)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和5年3月23日

宮崎市長 清山 知憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市田野町甲2818番地
名 称	田野まちづくり協議会
代表者の氏名	松浦 繁盛
電 話 番 号	0985-69-0515

令和4年3月31日付で交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書又は収支決算見込書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) 積立金管理状況報告書
- (ホ) その他

(様式第5号)

令和4年度 事業実施報告・収支決算(見込)書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

1 総括

令和4年度は17事業を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特に高齢者対象や集客力の高いイベントの中止が3つあった。しかしながら、感染防止対策を考慮して規模や期間を縮小した田野しっかが祭りや、初めて合同で実施したおTANOしみマルシェも予想以上の活況を呈した。また、以前からの課題であった田野観光マップが漸く完成し、町内外への配布作業に入った。今後も各種団体と連携しながら取組んでいきたい。

2 収支決算

(1) 収入の部

(単位:円)

項目	予算	決算	差	備考
地域コミュニティ活動交付金	2,867,000	2,867,000	0	
繰越金	1,737,921	1,737,921	0	
寄付金	0	110,000	110,000	田中漬物・桜屋旅館
参加者負担金	215,000	13,500	201,500	
売上金	0	0	0	
自己資金	79	27	52	
合計	4,820,000	4,728,448	91,552	

(2) 支出の部

分野	事業名	実施年数	予算	決算	差	備考
防	防犯・防災事業	14年目	251,000	199,286	51,714	
福	健康ふくしま祭り共催事業	14年目	40,000	17,010	22,990	中止
福	福祉共催事業(地域ふれあい交流)	13年目	120,000	2,134	117,866	中止
福	高齢者・認知症サポート支援事業	5年目	20,000	4,728	15,272	
環	いこいの里山づくり事業	14年目	304,000	291,950	12,050	
再	鱈塚山山開き事業	11年目	40,000	13,602	26,398	
再	田野しっかが祭り活性化事業	10年目	343,000	127,762	215,238	
再	田野駅活性化事業	12年目	372,000	322,790	49,210	
再	特産品開発事業	11年目	115,000	1,176	113,824	
再	田野マルシェ事業	6年目	260,000	85,688	174,312	
健	イベント共催事業	14年目	50,000	13,680	36,320	中止
教	世代間交流事業	8年目	100,000	26,400	73,600	
教	寺子屋事業	7年目	220,000	91,280	128,720	
他	広報事業	14年目	535,000	453,866	81,134	
他	フォトカレンダー事業	12年目	128,000	116,795	11,205	
他	マップ作成事業	4年目	710,000	699,050	10,950	
他	まちづくり協議会運営事業	14年目	1,212,000	923,373	288,627	
繰越金				1,337,878		
合計			4,820,000	4,728,448	91,552	

3 実施報告

[1] 防犯・防災に係る事業

事業名	防犯・防災事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：なし													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち</p> <p>基本項目 2. <u>安心安全なまちづくり</u> 防犯パトロール</p>														
目的 (期待される効果)	<p>地域住民が安心して暮らせる安全なまちづくりのため、青色パトロール・学童見守りの活動を通じて、犯罪を抑制し、子どもたちの健全育成に努める。地域住民が安心して暮らせる安心・安全なまちづくりを目指す。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) 青パト隊員25名による防犯パトロールを週4日(月・火・木・金)実施した。(原則2名体制)</p> <p>(2) 青色パトロール講習会 会 場：田野文化会館 実施日：令和4年10月25日(火) 内 容：南警察署による青パト講習会を実施した 参加人数：13名</p> <p>(3) 見守り隊員18名による学童見守りを行った。 毎週月曜日～金曜日 午前7時15分～7時50分 2名体制で大石百貨店前交差点で実施 見守り隊員以外に、PTAも参加協力</p>														
事業費	199,286円														
対象者	地域住民・小中高学生														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防犯パトロール</td> <td>299人</td> <td>189人</td> </tr> <tr> <td>学童見守り</td> <td>402人</td> <td>275人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>701人</td> <td>464人</td> </tr> </tbody> </table> <p>延べ人数</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	防犯パトロール	299人	189人	学童見守り	402人	275人	合 計	701人	464人
年 度	令和4年度	令和3年度													
防犯パトロール	299人	189人													
学童見守り	402人	275人													
合 計	701人	464人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・青パト、子どもの見守り活動を通して地域住民が安心して暮らせている。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	毎日見守り活動を行うことで、地域で地域の安全を守っているという認識ができています。	広報	事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS ・小学校PTAにも継続的に協力要請している。
	住民の参加	A	A	一部の自治会から自主的に見守りの新規加入があった。			事業の効果	課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域の安心安全のため、妥当である。	事業の満足度	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	PTAの協力を去年から継続している。また、新たに一部の自治会の協力を得た。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の部会から若手の参加が得られ、高齢化による減員の補填が得られた。 ・自治会の協力を得て見守り会員が増えた。 ・県民文化センターにて田野パトロール隊が「防犯功労団体賞」を受賞。 								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>						対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2] 地域・福祉に係る事業

事業名	健康ふくしま祭り共催事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち</p> <p>基本項目 3. 健康福祉の充実 救急救命講習の実施 健康ふくしま祭りでの啓発</p>														
目的 (期待される効果)	<p>各種団体と連携して、健康ふくしま祭り時にまちづくり協議会ブース(防災コーナー)を設け、安心・安全なまちづくりの推進を図る。防災意識の薄い町民に、住民一人一人がいざという時の助け合いの心を共有する。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) たの健康ふくしま祭り第一回実行委員会 9月28日(水) 内 容： 実行委員長・副委員長・監事選出 たの健康ふくしま祭り開催の可否について</p> <p>(2) たの健康ふくしま祭り第二回実行委員会 10月26日(水) 内 容： 令和4年度健康ふくしま祭りの開催可否を検討</p> <p>(3) たの健康ふくしま祭り第三回実行委員会 11月30日(水) 内 容： 令和4年度の健康ふくしま祭りの中止決定 令和5年度の健康ふくしま祭りについて検討 ・開催時期 ・開催場所</p> <p>(4) たの健康ふくしま祭り第四回実行委員会 1月18日(水) 内 容： 令和5年度健康ふくしま祭りの開催決定 ・開催日:10月15日(日) 場所:ふれあいセンター 配布予定の防災グッズ等購入(来年度配布)</p>														
事業費	17,010円														
対象者	地域住民・健康ふくしま祭りの参加者														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度【中止】</th> <th>令和3年度【中止】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度【中止】	令和3年度【中止】	一般参加者	人	人	スタッフ	人	人	合 計	人	人
年 度	令和4年度【中止】	令和3年度【中止】													
一般参加者	人	人													
スタッフ	人	人													
合 計	人	人													
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	地域の各種団体が参加し、地域最大の福祉行事である。	広報	事業の周知			
	住民の参加				事業の効果	課題解決への作用			
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各種団体と連携して実施することで、事業展開にもつながる。		住民の満足度			
	各種団体との連携	A	A	社協・市・児童センター・保育会・民生委員・学校など、多くの団体が参加している。	事業継続の必要性		有・無		
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <p>・コロナの影響により今年度も開催できなかったが、来年度の開催に向けて活発な論議がなされ、今後の方向性が見い出せた。</p>							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>				対応	未・済			
	<意見への対応>					対応	未・済		
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>				対応		未・済		
	<意見への対応>					対応	未・済		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2]地域・福祉に係る事業

事業名	福祉共催事業（地域ふれあい交流）	実施年数	13年目												
事業期間	開始：平成22年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち</p> <p>基本項目 1. 三世代交流 高齢者の集う場所を設け、世代間交流をを図る 3. 健康福祉の充実 世代間交流を図り、思いやりのある福祉のまちをつくる</p>														
目的 (期待される効果)	<p>家にこもりがちな高齢者の集う場所を設けることにより、地域のニーズ把握や高齢者相互及び世代間の交流を図り、思いやりのある福祉のまちをつくる。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) 第1回田野地域ふれあい交流実行委員会 会場：田野文化会館 実施日：令和4年7月6日(水) 内容：令和4年度ふれあい交流の開催について検討</p> <p>(2) 第2回田野地域ふれあい交流実行委員会 会場：田野文化会館 実施日：令和4年8月25日(木) 内容：令和4年度ふれあい交流の開催中止が決定</p> <p>(3) 田野地域ふれあい交流【中止】(コロナ感染拡大防止のため) 会場：田野文化会館 実施日：令和4年9月19日予定 中止 内容：町内75歳以上の高齢者を対象に交流会を開催する まちづくり写真館として写真を撮影し、帰りに渡す 撮影用写真用紙の購入</p>														
事業費	2,134円														
対象者	地域住民(75歳以上の高齢者)														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度【中止】</th> <th>令和3年度【中止】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度【中止】	令和3年度【中止】	一般参加者	人	人	スタッフ	人	人	合 計	人	人
年 度	令和4年度【中止】	令和3年度【中止】													
一般参加者	人	人													
スタッフ	人	人													
合 計	人	人													
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	田野町で敬老の日 に開催される高齢者 の交流の場として浸透 している。	広報	事業の周知			
	住民の参加				事業の 効果	課題解決への作用			
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくり写真館を運 営し、高齢者に喜ばれて いる。		住民の満足度			
	各種団体との連携	A	A	田野町地域婦人連絡協 議会・自治会・民生委員 と連携している。	事業継続の必要性		有・無		
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> ・コロナ禍でも開催できるような検討が必要である。								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							対応	未・済
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応		未・済
	<意見への対応>							対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2] 地域・福祉に係る事業

事業名	高齢者・認知症サポート支援事業	実施年数	5年目												
事業期間	開始：平成30年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち</p> <p>基本項目 2. <u>安心安全なまちづくり</u> 声かけ見守り 3. <u>健康福祉の充実</u> 認知症になっても地域で安全に暮らせるような福祉の充実</p>														
目的 (期待される効果)	<p>各種団体と連携して、認知症になっても住み慣れたまちで暮らすことができるようなまちづくりを目指す。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) 認知症見守り声掛け模擬訓練 (包括ケア推進委員会との共催) 会 場：田野北地区公民館 及び 周辺 実施日：11月20日(日) 対 象：法光坊地区 内 容：認知症について基本的な知識や対応の仕方を学んだ後その知識を生かし、設定されたコース内での認知症役の人に「声かけ、通報」までの模擬訓練を実践した。</p>														
事業費	4,728円														
対象者	法光坊自治会・その他地域住民														
参加者数 (内訳)	<p>(2) 声かけ見守り模擬訓練</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加</td> <td>26人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>25人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>51人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加	26人		スタッフ	25人		合 計	51人	
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加	26人														
スタッフ	25人														
合 計	51人														
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の理解が深まった。 ・声かけの仕方が勉強になった。 ・全町民にこのような機会をもっと増やして欲しい。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	認知症の方が地域で暮らし続けられるように、地域で見守ることは重要である。	広報	事業の周知	A	B	自治会及び支援センター関係者他を通じて連絡。
	住民の参加	A	B	コロナ禍での縮小規模ではあったが、「模擬訓練」を実施し、法光坊地区の住民の参加を得られた。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	高齢化社会を迎えるにあたり、安心安全なまちづくりを進めるために重要である。	事業の満足度	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	B	包括支援センター、わにつか荘との連携ができた。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <p>・住民の方も一生懸命取り組んでおり、今後の対応や周りへの広がり期待したい。</p>								
地域協議会からの意見への対応	<意見への対応>						対応	未・済	
	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未・済	
<意見への対応>						対応	未・済		

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[3]環境に係る事業

事業名	いこいの里山づくり事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 自然環境と産業の調和したまち</p> <p>基本項目 4.豊かな自然と共生するまち いこいの里山事業の再構築</p>														
目的 (期待される効果)	環境にやさしいまちづくりを推進し、次世代を担う子どもたちに豊かな自然を残すため、環境保全活動の取り組みを市民に広めていく。														
事業内容・手段	<p>(1) 前平森林公園(新ひむかの森公園)の整備 会 場：前平森林公園周辺 実施日：毎月第1日曜日(8時~14時)12回/年 内 容：草刈り・枝おろし・公園入口及び道路脇の整備</p> <p>(2) 一本桜植栽 会 場：前平森林公園周辺 実施日：令和5年2月21日(火) 内 容：田野中第76回卒業生代表3人による桜の植栽</p>														
事業費	291,950円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>19人</td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>100人</td> <td>93人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>119人</td> <td>108人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	19人	15人	スタッフ	100人	93人	合 計	119人	108人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	19人	15人													
スタッフ	100人	93人													
合 計	119人	108人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・花見に来る人が増えた。 ・コーラスグループの練習場にも利用され、少しずつ認知されて来た。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	いこいの場として今後も継続して整備していく必要あり。	広報	事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS	
	住民の参加	B	B	まち推の部会員中心だが、今年も日本山岳会宮崎支部の協力を得た。	事業の効果度	課題解決への作用	B	B	来場者が増加し、日本山岳会宮崎支部の協力も得た。	
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	いこいの里山として、トイレ、東屋、駐車場など整備し、徐々に認知されつつあるので継続していきたい。		住民の満足度	B	B	コロナ禍の中、ウォーキングする人や、散策・花見する人が増えて来ている。	
	各種団体との連携	B	B	日本山岳会宮崎支部の協力を得ている。	事業継続の必要性		有・無			
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・公園内に市町村の樹木が植えられており、それぞれの「表示看板」を設置した。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>					対応	未・済		
		<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>					対応	未・済		
		<意見への対応>								

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4]地域再生に係る事業

事業名	鱈塚山山開き事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 自然環境と産業の調和したまち</p> <p>基本項目 4.豊かな自然と共生するまち わにつか渓谷の再生へ向けてのもみじ植栽・山開きの拡充</p>														
目的 (期待される効果)	<p>田野町の象徴である鱈塚山の自然を市民に広く知ってもらうため、安全祈願祭を実施する。</p>														
事業内容・手段	<p>(1)山開き安全祈願祭 会場：鱈塚山登山道入口 実施日：令和4年4月17日(日) 内容：登山道入口で、安全祈願祭のみ行った。</p> <p>コロナウイルス感染拡大防止のため縮小して開催</p>														
事業費	13,602円														
対象者	地域住民・登山者														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>18人</td> <td>26人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>6人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>24人</td> <td>35人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	18人	26人	スタッフ	6人	9人	合計	24人	35人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	18人	26人													
スタッフ	6人	9人													
合計	24人	35人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・祈願祭に出席。厳粛な気持ちで今年の無事故とコロナの収束を祈念することが出来た。 ・年々、イワザクラを楽しみに来ている登山者が増えて来ている。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	田野を象徴する鰐塚山の山開きは、町内外から望まれている。	広報	事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS
	住民の参加	B	B	コロナ感染防止のため、縮小して行った。		事業の効果	課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	2005年の台風災害で途絶えていた山開きの実施は妥当であり、祈願祭の意義は大きい。	事業の成果		住民の満足度	B	B
	各種団体との連携	B	B	日本山岳会宮崎支部の会員が多く参加。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <p>・コロナ感染拡大防止のため今年度も縮小して行ったが、参加した登山客は山開き祈願祭を楽しみに待っていた。</p>								
地域協議会からの意見への対応	<意見への対応>						対応	未・済	
	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4]地域再生に係る事業

事業名	田野しっちゃんが祭り活性化事業	実施年数	10年目												
事業期間	開始：平成25年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち</p> <p>基本項目 6．行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 ふるさとまつり</p>														
目的 (期待される効果)	<p>田野しっちゃんが祭り時にお化け屋敷を開催し、祭りを盛り上げることに より、まちの活性化を図る。また、まちづくり協議会活動の周知に努め る。</p>														
事業内容・手段	<p>(1)お化け屋敷に代わる「テント屋台」を実施(田野しっちゃんが祭り) 会 場： 田野総合支所前 実施日：令和4年7月17日(コロナ感染状況から1日に短縮) 内 容：コロナ感染防止の為、テント屋台を設営し、次の活動を実施 後藤館長制作による“謎の動物”の展示 子ども向けクジ引き ハンダ付け体験</p>														
事業費	127,762円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>令和4年度</th> <th>クジ引き</th> <th>ハンダ付け体験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>270人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>8人</td> <td>4人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>278人</td> <td>22人</td> </tr> </tbody> </table>			令和4年度	クジ引き	ハンダ付け体験	一般参加者	270人	18人	スタッフ	8人	4人	合 計	278人	22人
令和4年度	クジ引き	ハンダ付け体験													
一般参加者	270人	18人													
スタッフ	8人	4人													
合 計	278人	22人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年振りに“田野しっちゃんが祭り”が開催され、大人も子どもも大いに賑わい、久しぶりの町の活気を感じる事ができた。 ・今回の屋台は初めての試みだったが、子ども達にも好評であった。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	今年度はお化け屋敷に代わるお化け屋台だったが、子ども達のニーズに十分答えていた。	広報	事業の周知	A	B	・広告チラシ ・田野紙 ・SNS
	住民の参加	B	B	今年度はお化けの制作・展示のみの為、住民の参加は出来なかった。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まつり時のお化け屋敷あるいはお化け屋台は子どもたち人気の催しのため、妥当である。	事業の効果	住民の満足度			A
	各種団体との連携	B	B	児童センターとの連携			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <p>・期待のお化け屋敷は中止となったが、それに代わるお化け屋台も好評であったことから、色々なパフォーマンスのあり方が模索できた。</p>							
地域協議会からの意見への対応		<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	
		<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4]地域再生に係る事業

事業名	田野駅活性化事業	実施年数	12年目												
事業期間	開始：平成23年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち</p> <p>基本項目 4.豊かな自然と共生するまち 冬限定の風物詩大根やぐらの継承 6.行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 ライトアップ</p>														
目的 (期待される効果)	<p>田野の玄関でもある田野駅をライトアップすることにより、地域活性化の機運を盛り上げる。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) ライトアップ準備作業 実施日：令和4年6月～11月 内容：イルミネーション点検・修理</p> <p>(2) 田野駅ライトアップ 会場：田野駅前広場 実施日：11月23日(水)：やぐら組立 11月26日(土)・27日(日)：イルミ装飾 令和5年1月22日(日)：やぐら撤去 内容：田野の冬の風物詩である大根やぐらを組立て、手作りの大根型のイルミネーションを飾り付ける。 また、大根やぐら内側に田野小学校6年生・七野小学校6年生・田野中学校3年生の将来の夢短冊を飾った。</p> <p>(3) 点灯式 会場：田野駅前広場 実施日：令和4年12月1日(木) 内容：コロナ感染拡大防止のため、例年より縮小したが、田野中学校代表者による点灯式を行った。</p>														
事業費	322,790円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>80人</td> <td>50人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>80人</td> <td>90人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>160人</td> <td>140人</td> </tr> </tbody> </table> <p>スタッフは準備から片付までの延べ人数</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	80人	50人	スタッフ	80人	90人	合計	160人	140人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	80人	50人													
スタッフ	80人	90人													
合計	160人	140人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、子ども達の参加が多く、にぎやかに楽しく、しかもスムーズに作業できたことが良かった。 ・婦人会の“振る舞い”のカレーが好評であった。 														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	冬の風物詩「大根やぐら」に大根型のイルミを下げ、田野らしさの演出が期待されている。	広報	事業の周知	A	A	・田野紙 ・SNS ・点灯式は12月1日と固定している。
	住民の参加	A	B	小学生、中学生、田野総合支所、宮崎太陽銀行そして地元住民の方の協力を得た。		事業の効果	課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野らしい「大根やぐら」のライトアップをすることで、地域活性化の一因になるよう努力している。	事業の成果		住民の満足度	A	A
	各種団体との連携	A	B	田野小・七野小・田野中・婦人会・花まちづくり協議会・市役所等と連携している。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入口にナイアガラの滝、トンネル、地球儀、そして大小の大根やぐらに広がるイルミネーションが一面に輝き、子ども達を楽しませた。 ・マスコミ各社から取材、放映してもらい、町外からも来場者が増えた。 							
地域協議会からの意見への対応		<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>				対応		未・済	
		<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>				対応		未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4 地域再生に係る事業]

事業名	特産品開発事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 自然環境と産業の調和したまち</p> <p>基本項目 4.豊かな自然と共生するまち 事業者との連携による新特産物の開発</p>														
目的 (期待される効果)	<p>・生産者・飲食店と連携して特産品の開発に取り組む。 ・「干し野菜」と露地畑作の高度利用システムが日本農業遺産に認定されたことに伴い、干し野菜を使った特産品開発に取り組む。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) おTANOしみマルシェでの「漬物コンテスト」 【中止】 実施日：令和4年11月27日(日) 内容：マルシェでの漬物コンテストを検討したが、コロナ感染を考慮して中止し、餅つき体験&餅の振る舞いを実施した。</p> <p>(2) 宮崎ブーゲンビリア空港「大根やぐら展」での試験販売 【中止】 日時：令和5年1月6日(金)～12日(木) 内容：ブーゲンビリア宮崎空港で開催された「大根やぐら展」でフライドはりはりの試験販売を行う予定だったが、生産者の事情により販売中止とした。</p> <p>(3) 特産品開発部会 実施日：令和5年1月31日(火) 内容：コロナ感染の拡大とおTANOしみマルシェの準備により商品開発の検討ができなかったが、今後フライドはりはりの『賞味期限・設定検査』(食品保存試験)等を行い、商品化を進める食品以外の特産品の開発 自然栽培の調査・研究を始める方向で確認した。</p>														
事業費	1,176円														
対象者	地域住民、町外住民														
参加者数 (内訳)	<p>(2) 令和4年度 宮崎ブーゲンビリア空港「大根やぐら展」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般入場者</td> <td>7,382人</td> <td>7,156人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>0人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7,382人</td> <td>7,169人</td> </tr> </tbody> </table> <p>田野まち協としては出店していない。(田野町紹介の写真を展示)</p>			年度	令和4年度	令和3年度	一般入場者	7,382人	7,156人	スタッフ	0人	13人	合計	7,382人	7,169人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般入場者	7,382人	7,156人													
スタッフ	0人	13人													
合計	7,382人	7,169人													
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	日本農業遺産の認定を受けたことにより、干し野菜を使った特産品の開発は重要。	広報	事業の周知	B	B	・田野紙 ・SNS
	住民の参加	B	B	特産品開発部に所属している飲食店が参加している。また、漬物コンテストへの一般参加も期待できる。		事業の効果	課題解決への作用	B	B
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	長年継続して取り組んできたので、飲食店等との連携をより強化していきたい。	事業の成果		住民の満足度	B	B
	各種団体との連携	B	B	商品化に向け、商工会、JA、みやPECとの連携が必要。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「干し大根」を使ったフライドはりはりの商品化の動きが遅くなっていたが、専門家に指導をもらい、食品保存試験の方向に進めている。フライドはりを特産品とするため、継続して開発する。 							
地域協議会からの意見への対応		<p><地域協議会からの意見（令和4年11月・事業報告）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと納税の返礼品になるような、パッケージ等工夫をしていくと良いかと思う。 <p><意見への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品保存の観点からも、また商品化を進める上でも検討課題になって来ており、今後進めて参ります。 					対応	未・済	
		<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4 地域再生に係る事業]

事業名	田野マルシェ事業	実施年数	6年目												
事業期間	開始：平成29年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	<p>基本目標 自然環境と産業の調和したまち</p> <p>基本項目 5. 地域力の充実と発信 住民同士のきずな強化</p>														
目的 (期待される効果)	<p>田野の特産品、手作り品などの展示販売をする。同時開催として各家庭自慢の漬物を募集し、漬物コンテストを実施する。</p>														
事業内容・手段	<p>昨年度の計画では10月9日に単体にて実施する予定であったが、新たに4団体(当協議会・田野もりあげる研究所・JA青年部・日本農業遺産推進協議会)及び協力団体として婦人連絡協議会・JA女性部・干し大根生産者による実行委員会を立上げ、11月27日(日)に「おTANOしみマルシェ」を実施した。</p> <p>(1) おTANOしみマルシェ 会 場：田野町あけぼの広場 実施日：令和4年11月27日(日) 内 容：・大根やぐらを設置/田野中吹奏楽部の演奏/竹太鼓 等 ・当協議会はコロナを考慮して『漬物コンテスト』を中止とし、餅つき体験&餅の振る舞いを行なった。 ・今回、合同及び各々の実行委員会を重ねて、各団体の役割分担、レイアウト、宣伝活動等々を綿密に打合せを実施。</p>														
事業費	85,688円														
対象者	地域住民、町外住民														
参加者数 (内訳)	<p>(4) おTANOしみマルシェ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度【中止】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>1,700人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>30人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,730人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度【中止】	一般参加者	1,700人	人	スタッフ	30人	人	合 計	1,730人	人
年 度	令和4年度	令和3年度【中止】													
一般参加者	1,700人	人													
スタッフ	30人	人													
合 計	1,730人	人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・子ども達から「色々な催しがあり、楽しかった」という声が多かった。 ・『子ども達参加型』のスタイルが好評であった。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	地域の若い世代からの要望が強く、マルシェを通して田野の魅力発信につながる。	広報	事業の周知	A		・新聞折込チラシ ・ポスター ・田野紙 ・SNS
	住民の参加	A		各種団体以外にも一般市民のボランティア参加が得られた。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	各種団体が所属しているため、まちづくり協議会が取組むのは妥当である。	事業の効果	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A		今回、田野もりあげる研究所、JA青年部など多くの団体と連携した。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等		<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 各団体の長所が上手くはまって成功裏に終わった。この理由の一つは綿密な打合せと調整であった。今後、この経験を生かしていきたい。 							
地域協議会からの意見への対応		<p><地域協議会からの意見（令和4年11月・事業報告）></p> <ul style="list-style-type: none"> おTANOしみマルシェは大盛況だったので、予算内で次年度も継続できるようお願いしたい。 <p><意見への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> その方向で進めて参ります。 				対応	未・済		
		<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・事業報告）></p> <p><意見への対応></p>					対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[5 健康づくりに係る事業]

事業名	イベント共催事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	<p>基本目標 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち</p> <p>基本項目 6. 行政に頼らない住民主導のスポーツ・文化活動の復活 太鼓フェスティバル スポーツイベントの開催</p>														
目的 (期待される効果)	<p>マラソン大会を地区体育会と共催して行うことや太鼓フェスティバルにまち協ブースを出すことで、地域間交流・世代間交流を通し町の活性化を図る。 また、まちづくり協議会活動内容のPRにつなげる。</p>														
事業内容・手段	<p>(1) 太鼓フェスティバル実行委員会 会 場：田野公民館 実施日：令和4年5月26日 内 容：実行委員会にて令和4年度太鼓フェスティバル開催等について協議し、8月27日開催を決定</p> <p>(2) 太鼓フェスティバル【中止】 会 場：田野運動公園 内 容：令和4年度太鼓フェスティバル中止を決定(8月10日)</p> <p>(3) マラソン大会【中止】 会 場：田野運動公園周辺 実施日：令和5年1月中旬</p> <p>出店テント用ライトを購入。(来年度以降に使用)</p>														
事業費	13,680円														
対象者	地域住民・町外住民														
参加者数 (内訳)	<p>(2) 太鼓フェスティバル</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度【中止】</th> <th>令和3年度【中止】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>人</td> <td>人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度【中止】	令和3年度【中止】	一般参加者	人	人	スタッフ	人	人	合 計	人	人
年 度	令和4年度【中止】	令和3年度【中止】													
一般参加者	人	人													
スタッフ	人	人													
合 計	人	人													
住民の声(アンケートの結果等)															

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	町内外から多くの来場者があるイベントで、まちづくり協議会を広報することは重要である。	広報	事業の周知			
	住民の参加				事業の効果	課題解決への作用			
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の魅力発信、まちづくり活動の周知等、取組みとして妥当である。		住民の満足度			
	各種団体との連携			太鼓フェスティバル・マラソン大会実行委員会に入っているため、多くの団体と連携している。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>					対応	未・済		
	<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>					対応	未・済		
	<意見への対応>								

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6 地域教育に係る事業]

事業名	世代間交流事業	実施年数	8年目												
事業期間	開始：平成27年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち</p> <p>基本項目 1. 三世代交流 町内に居住してる高齢者やさんさんクラブ会員を講師に招き、子どもたちと交流する</p>														
目的 (期待される効果)	<p>田野町内の技術をもつ高齢者やさんさんクラブ会員を講師に招き、講話やもの作りを通じて交流を図り、高齢者の生きがい作りとともに子どもの豊かな心を育てる。</p>														
事業内容・手段	<p>会 場：田野児童センター</p> <p>(1) 子ども食堂 実施日：令和5年1月28日(土)</p> <p>(2) バレンタイン 実施日：令和5年2月14日(火)</p> <p>(3) 人権DVD勉強会 実施日：令和5年2月15日(水)</p> <p>コロナ感染拡大防止のため、4月～12月までの子ども食堂、紙芝居、人権カルタその他については中止した。</p>														
事業費	26,400円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>97人</td> <td>103人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>17人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>114人</td> <td>119人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	97人	103人	スタッフ	17人	16人	合 計	114人	119人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	97人	103人													
スタッフ	17人	16人													
合 計	114人	119人													
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・令和4年4月から12月までイベントがなかったので、久しぶりのイベントに子ども達がはしゃいでいた。</p>														

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	田野の方を講師に招き、子どもたちとの交流の場になっている。	広報	事業の周知	B	B	児童館にて広報
	住民の参加	B	B	児童センターで実施するため、未就学児童の親子や、子育て支援センターの子ども達の参加。	事業の効果	課題解決への作用	A	A	子ども達も楽しんでおり、親子での参加も多く、地域との交流になっている。
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の技術を持った方と子ども達との交流は、取組む事業として妥当である。		住民の満足度		B	B
	各種団体との連携	B	B	児童センター、さんさんクラブと連携している。	事業継続の必要性		有・無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのイベントなのでマスク着用を指導していたが、どの子供たちも素直に着用していた。 								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>						対応	未・済	
	<p><地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>						対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6 地域教育に係る事業]

事業名	寺子屋事業	実施年数	7年目															
事業期間	開始：平成28年度	終了： 年度																
地域魅力発信プランとの関連	<p><u>基本目標</u> 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち</p> <p><u>基本項目</u> 1. 三世代交流 5. 地域力の充実と発信 8. 歴史・文化の啓発と伝承</p> <p>学校との連携 子どもたちがいきいきと生活できる環境づくり</p>																	
目的 (期待される効果)	<p>TANO寺子屋チームと一緒に中学生を対象に勉強を教えると共に、地域のボランティアや大学生と交流することで、孤独感を感じることなく、いきいきと生活できる環境づくりを行う。</p>																	
事業内容・手段	<p>(1) 寺子屋オリエンテーション 実施日：令和4年7月9日(土) 内 容：大学生(7名)・まちづくり協議会との打合せ</p> <p>(2) 寺子屋勉強会 会 場：田野児童センター 2階ホール 実施日：令和4年7月～令和5年2月(8～10月は中止) 毎週土曜日 10時～12時 実施日：17回 休講：13回(今年度・年間30回) 内 容：宮大生を講師に招き、中学生を対象に勉強会を実施した。</p> <p>8月～10月は緊急事態宣言・まん延防止等措置のため中止</p>																	
事業費	91,280円																	
対象者	地域住民																	
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学生</td> <td>179人</td> <td>81人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>47人</td> <td>37人</td> </tr> <tr> <td>大学生</td> <td>28人</td> <td>47人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>254人</td> <td>165人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	中学生	179人	81人	スタッフ	47人	37人	大学生	28人	47人	合 計	254人	165人
年 度	令和4年度	令和3年度																
中学生	179人	81人																
スタッフ	47人	37人																
大学生	28人	47人																
合 計	254人	165人																
住民の声(アンケートの結果等)	・保護者にも喜ばれている。																	

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	中学生の学力の低下を抑制するため、塾に通えないような子どもたちも学習する場を設けている。	広報	事業の周知	A	A	・中学校へチラシ配布 ・田野紙 ・SNS
	住民の参加	B	B	コロナ禍では比較できないが、昨年より中学生3年生の参加が増えた。		事業の効果	課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	TANO寺子屋チームが主体だが、まち協もスタッフとして加わり寺子屋チームと協議しながら運営している。	事業の必要度		住民の満足度	A	A
	各種団体との連携	B	B	TANO寺子屋チームを中心に、大学・中学校と連携している。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							未・済	
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	広報事業	実施年数	14年目
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度	
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 自然環境と産業の調和したまち</p> <p>基本項目 5. 地域力の充実と発信 田野紙を町内全戸配布することによる地域の情報発信</p>		
目的 (期待される効果)	<p>まちづくり協議会の取り組み、行事を広く住民に広報することにより、まちづくり協議会の認知度向上と取り組みへの参加を促すとともに、田野町の良いところの再確認を促す。</p>		
事業内容・手段	<p>(1) 田野紙の制作・ポスティングによる町域全戸配布(4,800戸) 実施日：3ヶ月毎に年4回発行(夏号・秋号・冬号・春号) 今年度「秋号」からデザイン・レイアウトを変更。 一面 全面写真表紙 <二面> IUターン / 田野史 三面 教育・子育て / 部会&メンバー紹介 四面 掲示板 / クイズ / お知らせ</p> <p>(2) 学校・公共施設などへの配布 及び 支所・駅での掲示</p> <p>(3) インスタグラムによる情報発信</p>		
事業費	453,866円		
対象者	地域住民		
参加者数 (内訳)	田野町全世帯に配布(年4回) 4,800世帯		
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・田野に住んでいながら知らないことが多く、楽しみにしている。 ・IUターンの自分には、田野を知る大きな情報源となっています。 		

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	自治会未加入世帯にもポストに届くため、田野町全域に情報発信できる。	広報	事業の周知	A	A	自宅のポストに配布。
	住民の参加	B	B	田野紙を見て問い合わせも増え、住民との交流の足掛かりとなっている。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	町内全世帯配布なので、内容を更に充実させ、田野の情報を継続して発信することが重要である。	事業の効果	住民の満足度			A
	各種団体との連携	B	B	全世帯配布のため、各種団体よりお知らせの掲載依頼がある。また、情報を提供して頂いている。			事業継続の必要性		有 ・ 無
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> ・デザイン・レイアウト変更が好評である。 ・取材については部会員、事務局と連携しながら実施した。								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和元年5月・事業報告）>						対応	未・済	
	<意見への対応>							対応	未・済
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成 年 月）>						対応		未・済
	<意見への対応>							対応	未・済

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	フォトカレンダー事業	実施年数	12年目									
事業期間	開始：平成23年度	終了： 年度										
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち</p> <p>基本項目 4.豊かな自然と共生するまち 5.地域力の充実と発信 8.歴史・文化の啓発と伝承</p> <p>田野町内の豊かな自然や名所・旧跡等の写真を募集し、カレンダーにすることにより、田野の良いところの再確認を促す。</p>											
目的 (期待される効果)	<p>田野を見つめ直す良い機会とするため、「田野」をテーマに写真を募集し、カレンダーを作成し配布する。</p>											
事業内容・手段	<p>(1) カレンダー作成 内 容：「田野」をテーマに写真を田野紙・SNS等で募集し、その中から優秀作品8点を選び、カレンダーを作成。 11月末に自治会を通して配布を行った。 また、入賞者へ賞品の贈呈を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真応募締切：8月31日(水) ・印刷枚数 2,600枚 											
事業費	116,795円											
対象者	地域住民・町外の希望者											
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募点数</td> <td>84点</td> <td>93点</td> </tr> <tr> <td>応募者人数</td> <td>31人</td> <td>50人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	応募点数	84点	93点	応募者人数	31人	50人
年 度	令和4年度	令和3年度										
応募点数	84点	93点										
応募者人数	31人	50人										
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・田野町の色々な所が発見できて、毎年楽しみにしている。 ・我が家の室内インテリアにもなっている。 											

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	配布後の反応、手ごたえで地域の方に求められていることが分かる。	広報	事業の周知	A	A	・田野紙 ・ポスター掲示 ・SNS
	住民の参加	B	B	毎年応募する方やインスタグラムで応募する方など、幅広い層に広がって来ている。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の魅力をフォトカレンダーで町内外へ発信することは、取組として妥当である。	事業の効果	住民の満足度			A
	各種団体との連携	B	B	写真応募ポスターの掲示やカレンダー掲示を各種団体をお願いしている。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> ・宮崎空港の日本農業遺産イベント・まち協コーナーにカレンダーを掲示し、「自由にお取り下さい」とカレンダーを設置。予想以上の反応があった。								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（平成4年11月・事業報告）> 写真選考においては、審査の過程や透明性の確保と言う観点を明確にして頂きたい。 <意見への対応> 写真の背景や状況等を考慮するなど、審査員と相談の上、適切な選考となるよう努めて行きたい。						対応	未・済	
	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	マップ作成事業	実施年数	4年目
事業期間	開始：令和元年度	終了：	令和4年度
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち</p> <p>8. 歴史・文化の啓発と伝承 名所旧跡案内の充実</p>		
目的 (期待される効果)	<p>田野町をPRするマップを作成し、町内外に広く知ってもらい、観光の足掛かりとする。</p>		
事業内容・手段	<p>(1) 観光マッププロジェクト会議 会場：田野文化会館 実施日：令和4年5月24日・6月24日・9月2日 内容：令和元年から幾度とない部会長会議、全体会議等を経て内容検討、構成、デザインの作成、点検、修正、確認が10月まで行われ、11月に漸く終了。12月5日印刷・製本が完了した。 <表面>名所巡りマップ 裏面 グルメマップ <サイズ> A2の16折り <数量> 29,000部</p> <p>(2) 田野観光マップ 配布(令和4年12月～) ・宮崎市観光協会を通じて市内各観光施設 ・宮崎市公共施設(県立図書館/市立図書館/宮崎空港 他) ・田野町内(AZホテル/長日川/道の駅田野/宮崎国際空港CC/田野駅/町内飲食店 他) ・学校施設(田野小学校/七野小学校/田野中学校 他) ・田野町自治会を通じて、一般家庭へ配布予定</p>		
事業費	699,050円		
対象者	地域住民・宮崎県内外住民		
参加者数 (内訳)			
住民の声(アンケートの結果等)	<p>・田野町を知る為の教材に使用したい(田野小学校)、田野町にこんな史跡があるとは知らなかったと言う地域住民の声が多く聞こえた。</p>		

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	紙ベースの田野町観光マップがなく、町内外、特に町内の方々の要望が大きかった。	広報	事業の周知	A	A	・田野紙 ・SNS ・取材を受けて、宮崎日日新聞に記事掲載
	住民の参加	B	B	マップに掲載する飲食店など、商工会、食品衛生協会田野支部と連携。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	田野の情報提供と発信はまちづくり活動として妥当である。	事業の効果	住民の満足度			A
	各種団体との連携	A	A	配布に当たり、宮崎市観光協会、町内学校、町内事業所 他との連携を行った。			事業継続の必要性		有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・町外に「田野町の紹介」、町内に「田野町・再発見」のマップを新たに発信できた事は意義深い。これからの活動に役立てたい。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>					対応	未・済	
		<意見への対応>							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）>					対応	未・済	
		<意見への対応>							

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[7 その他の事業]

事業名	まちづくり協議会運営事業	実施年数	14年目
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度	
地域魅力発信プランとの関連	<p>基本目標 子どもから高齢者まで笑顔はぐくむまち 自然環境と産業の調和したまち 地域のつながり・教育・文化を大事にするまち</p>		
目的 (期待される効果)	<p>住民主体のまちづくり実現のため、役員会や各部会の開催や、広報活動など、田野まちづくり協議会の円滑な運営を行う。</p>		
事業内容・手段	<p>(1) 田野まちづくり協議会における会議、事業等に係る業務 実施日：令和4年4月～令和5年3月 内 容：・総会・役員会・合同部会・各部会等の資料作成、出席 ・各事業に係る資料作成、準備、出席 ・会議・イベント開催連絡、延期・中止連絡</p> <p>(2) 各種書類作成及び手続き業務 実施日：令和4年4月～令和5年3月 内 容：・事業計画・実績報告等の書類作成、提出 ・市役所等からの調査への回答</p> <p>(3) 会計に関する業務 実施日：令和4年4月～令和5年3月 内 容：・地域コミュニティ活動交付金活用事業に関すること ・地域まちづくり事務局運営補助金に関すること</p> <p>(4) 会員募集に関する業務 実施日：令和4年4月～令和5年3月 内 容：・まちづくり会員の募集 ・キッズ会員の募集 田野小・七野小・田野中に募集チラシ配布 キッズ会員カードの作成・事業案内等</p>		
事業費	923,373円		
対象者			
参加者数 (内訳)			
住民の声(アンケートの結果等)			

自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	地域ニーズの把握	A	A	まちづくり協議会の運営、活動を進めるためにも必要である。	広報	事業の周知			・田野紙 ・イベントでの紹介 ・ポスター
	住民の参加	A	A	町内外からの問合せ、各種団体からの問い合わせなど対応している。			事業の効果	課題解決への作用	A
効果的・効率的な取り組み	地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくり協議会運営をするには必要である。	事業の効果	住民の満足度			
	各種団体との連携	A	A	各種団体からの会員も多く、各種団体の事業へも参加している。			事業継続の必要性		有・無
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和4年11月・事業報告）> 部会員の少ない中で数多くの事業を実施されているが、事務局・部会員の負担にならないよう事業の見直しが必要と考える。 <意見への対応> 事務局員の週三日勤務体系や部会員の減少からそれぞれ負担になって来ているが、部会同士の相互乗り入れや新入会員募集など、部会の再構築や作業の効率化を図り、住民満足度の高い事業展開を行っていきたい。						対応	未・済	
	<地域協議会からの意見（平成 年 月・ ）> <意見への対応>						対応	未・済	

「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	防犯・防災事業
-----	---------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	199,286	
2			
3			
4	合計(A)	199,286	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	36,216	青パトガソリン 23,812円 お茶代 4,704円 修理代 7,700円
5	役務費	150,170	青パト任意保険 62,520円 車検費用 81,000円 ボランティア保険 6,650円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	公課費	12,900	青パト自動車税
12	合計(B)	199,286	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	健康ふくしまつり共催事業
-----	--------------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	17,010	
2			
3			
4	合計(A)	17,010	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	17,010	消耗品費
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	17,010	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	福祉共催事業
-----	--------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	2,134	
2			
3			
4	合計(A)	2,134	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	2,134	消耗品費 2,134円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	2,134	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	高齢者・認知症サポート支援事業
-----	-----------------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	4,728	
2			
3			
4	合計(A)	4,728	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	4,728	お茶代 4,728円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	4,728	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	いこいの里山づくり事業
-----	-------------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	291,950	
2			
3			
4	合計(A)	291,950	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	135,344	消耗品費 32,762円 苗木代 30,000円 燃料費 11,060円 材料費 806円 弁当・お茶代 60,716円
5	役務費	23,760	活動傷害保険 23,760円
6	委託料	10,455	トイレ汲取り 10,455円
7	使用料及び賃借料	4,110	タクシー借上代 4,110円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	118,281	樹木プレート代 118,281円
11	積立金		
12	合計(B)	291,950	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	鱒塚山山開き事業
-----	----------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	13,602	
2			
3			
4	合計(A)	13,602	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	13,602	材料費 13,602円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	13,602	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	田野しっちゃんが祭り活性化事業
-----	-----------------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	114,262	
2	参加者負担金	13,500	
3			
4	合計(A)	127,762	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	127,762	お茶・弁当代 5,000円 材料費 122,762円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	127,762	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	田野駅活性化事業
-----	----------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	212,790	
2	寄附金	110,000	田中漬物・桜屋旅館
3			
4	合計(A)	322,790	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	2,000	点灯式司会料
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	188,959	LED購入費 20,725円 材料費 50,204円 イルミ・短冊材料 67,022円 弁当・お茶代 22,806円 消耗品費 12,802円 やぐら用竹 15,400円
5	役務費	18,311	保険 12,340円 電気料 5,971円
6	委託料	113,520	電気架設 55,000円 産廃処分費 58,520円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	322,790	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	特産品開発事業
-----	---------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	1,176	
2			
3			
4	合計(A)	1,176	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	1,176	消耗品費 1,176円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	1,176	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	田野マルシェ事業
-----	----------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	85,688	
2			
3			
4	合計(A)	85,688	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	32,478	弁当・お茶代 17,676円 消耗品費 9,802円 材料費 5,000円
5	役務費		
6	委託料	4,700	チラシ作成 4,700円
7	使用料及び賃借料	48,510	仮設トイレ賃借料 48,510円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	85,688	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	イベント共催事業
-----	----------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	13,680	
2			
3			
4	合計(A)	13,680	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	13,680	消耗品費 13,680円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	13,680	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	世代間交流事業
-----	---------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	26,400	
2			
3			
4	合計(A)	26,400	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	3,000	講師料(人権勉強会)3,000円
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	23,400	材料費 23,400円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	26,400	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	寺子屋事業
-----	-------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	91,280	
2			
3			
4	合計(A)	91,280	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金	36,000	講師料 @1,000×36人
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	44,640	お茶代 35,599円 消耗品費 9,041円
5	役務費		
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	10,640	ホワイトボード 10,640円
11	積立金		
12	合計(B)	91,280	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	広報事業
-----	------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金		
2	繰越金	453,866	
3			
4	合計(A)	453,866	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	134,866	印刷製本費4回分 121,906円 景品代 9,000円 消耗品費 3,960円
5	役務費		
6	委託料	319,000	ポスティング4回分 319,000円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	453,866	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	フォトカレンダー事業
-----	------------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	116,795	
2			
3			
4	合計(A)	116,795	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	116,245	印刷製本費 94,380円 33円×2,600枚×1.1 賞品代 20,000円 消耗品費 1,865円
5	役務費	550	振込手数料 550円
6	委託料		
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	116,795	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

事業名	マップ作成事業
-----	---------

(1) 収入の部 (単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金		
2	繰越金	699,050	
3			
4	合計(A)	699,050	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当		
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償		
4	需用費	478,500	印刷製本費 478,500円 15円×29,000部×1.1
5	役務費	550	振込手数料 550円
6	委託料	220,000	デザイン料 220,000円
7	使用料及び賃借料		
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費		
11	積立金		
12	合計(B)	699,050	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第6号)

事業別収支計算書

田野地域自治区

田野まちづくり協議会

事業名	まちづくり協議会運営事業
-----	--------------

(1) 収入の部

(単位:円)

番号	項目	金額	備考
1	地域コミュニティ活動交付金	338,341	
2	繰越金	585,005	
3	自己資金	27	
4			
	合計(A)	923,373	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	内訳
1	賃金・手当	128,556	事務局長 50,120円 事務局職員 78,436円
2	報償費・謝金		
3	旅費・費用弁償	44,000	役員・部会員 @3,000円×14名=42,000円 旅費 @1,000円×2名=2,000円
4	需用費	148,057	まち協のぼり 17,270円 テプラ代 10,596円 消耗品費 120,191円
5	役務費	133,670	電話・ネット 84,370円 切手・はがき 44,340円 火災保険 4,960円
6	委託料	17,160	パソコン設定費 17,160円
7	使用料及び賃借料	336,960	コピー機リース 327,360円 車両賃借料 @500円×18回=9,000円 駐車料金 600円
8	工事請負費		
9	原材料費		
10	備品購入費	114,970	パソコン 99,680円 ペーパー裁断機 15,290円
11	積立金		
12	合計(B)	923,373	

収支差額(A) - (B)	0
---------------	---

(様式第7号)

積立金管理状況報告書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

積立金名称		災害時積立金	
積立金の収支 (単位:円)			
番号	項目	金額	備考
1	前年度までの積立額	598,870	
2	積立額	0	
3	利息	4	
4	取崩額	0	
	合計	598,874	

積立金名称			
積立金の収支 (単位:円)			
番号	項目	金額	備考
1	前年度までの積立額		
2	積立額		
3	取崩額		
	合計	0	

積立金名称			
積立金の収支 (単位:円)			
番号	項目	金額	備考
1	前年度までの積立額		
2	積立額		
3	取崩額		
	合計	0	

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和5年3月23日

宮 崎 市 長 殿

主たる事務所の所在地 宮崎市田野町甲2818番地
名 称 田野まちづくり協議会
代表者の氏名 会長 松浦 繁盛
電 話 番 号 0985-69-0515

令和4年3月31日付で交付決定のありました地域コミュニティ活動交付金については、決算において1,337,878円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添 付 書 類

令和4年度収支決算(見込)書

令和4年度 事業実施報告・収支決算（見込）書

田野地域自治区
田野まちづくり協議会

令和5年3月23日

収支決算

(1) 収入の部

(単位：円)

項目	予算	決算	差	備考
地域コミュニティ活動交付金	2,867,000	2,867,000	0	
繰越金	1,737,921	1,737,921	0	
寄付金	0	110,000	110,000	田中漬物・桜屋旅館
参加者負担金	215,000	13,500	201,500	
売上金	0	0	0	
自己資金	79	27	52	
合計	4,820,000	4,728,448	91,552	

(2) 支出の部

分野	事業名	実施年数	予算	決算	差	備考
防	防犯・防災事業	14年目	251,000	199,286	51,714	
福	健康ふくしまつり共催事業	14年目	40,000	17,010	22,990	中止
福	福祉共催事業（地域ふれあい交流）	13年目	120,000	2,134	117,866	中止
福	高齢者・認知症サポート支援事業	5年目	20,000	4,728	15,272	
環	いこいの里山づくり事業	14年目	304,000	291,950	12,050	
再	鱈塚山山開き事業	11年目	40,000	13,602	26,398	
再	田野しっちゃんが祭り活性化事業	10年目	343,000	127,762	215,238	
再	田野駅活性化事業	12年目	372,000	322,790	49,210	
再	特産品開発事業	11年目	115,000	1,176	113,824	
再	田野マルシェ事業	6年目	260,000	85,688	174,312	
健	イベント共催事業	14年目	50,000	13,680	36,320	中止
教	世代間交流事業	8年目	100,000	26,400	73,600	
教	寺子屋事業	7年目	220,000	91,280	128,720	
他	広報事業	14年目	535,000	453,866	81,134	
他	フォトカレンダー事業	12年目	128,000	116,795	11,205	
他	マップ作成事業	4年目	710,000	699,050	10,950	
他	まちづくり協議会運営事業	14年目	1,212,000	923,373	288,627	
繰越金				1,337,878		
合計			4,820,000	4,728,448	91,552	

(様式第8号)

令和4年度 田野地域まちづくり協議会への意見書 [事業実施報告]

田野地域自治区地域協議会
会長 黒木 光春

令和4年度の田野地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算について、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていきましたので、承認いたします。

なお、承認に際し、下記の意見がありましたので、対応を検討いただきますようお願いいたします。

記

1. 総括

新型コロナウイルス感染症の影響で3事業が中止になったが、必要な感染予防対策などを行いながら事業実施に向けて取り組んでいただいた。

コロナ禍の中、事業を進めていくことは厳しいと思われるが、今後も工夫しながら、地域魅力発信プランに基づき、田野らしいまちづくりに取り組んでいただきたい。

2. 事業の推進体制

部会員の高齢化・固定化の改善を図る必要がある。今後も、引き続き、削減も含めた事業の見直し、部会員の募集等を行い、事業が円滑に進むようお願いしたい。

3. 各事業への意見 (意見のある事業のみ記載)

事業名	意見
マップ作成事業	田野地域の魅力を発信できる素晴らしいマップを作成していただいた。 事業としては、今回で一旦終了ということであるが、今後も見直しを続けてもらい、より良いマップを作成していただきたい。

4. その他

コロナ禍により、やむを得ず事業を中止せざるを得ない状況が続いている中、感染予防対策を講じながら、工夫したまちづくり活動を展開していただいた。この経験を活かし、コロナ禍、そしてコロナ後のまちづくりに取り組んでいただきたい。

また、各事業への意見にも記載しているが、ようやくマップ作成事業が完了し、田野地域の魅力を発信することができる良いマップが完成したと思う。今回のマップ作成により見えてきた課題や問題点もあると思うので、そういったものを、次回以降の取り組みに役立てていただきたい。